ＭＶ－２２オスプレイの本格運用に関する声明

在日米軍から、現在沖縄に配備されているオスプレイが本格運用の段階に入ったことが明らかにされ、今月中にも飛行訓練が開始される見通しとなっている。

全国知事会では、去る平成 24 年 7 月 19 日に緊急決議を行い、オスプレイの安全性や事故原因、飛行訓練による周辺住民への影響等について、政府が責任を持って、関係自治体に詳細に説明するとともに、岩国飛行場への陸揚げや沖縄県への配備、全国各地で行われる飛行訓練等については、その具体的内容を明らかにするとともに、関係自治体の意向を十分尊重して対応するよう強く求めたところである。

これに対し、11 月 2 日の政府主催全国都道府県知事会議において、森本防衛大臣は、「今後具体的内容が固まったら関係する都道府県の皆様方にきちんと説明させていただきたい」と発言された。安全保障の重要性は我々としても認識しており、併せて沖縄県の負担軽減を実現させていかなければならないことは承知している。

オスプレイの安全性について、これまで政府は事故に関する主体的な検証のもと確認されたとしているが、政府からの十分な説明がなされていないことから、最大の懸念である安全性について関係自治体及び地域住民の不安はいまだ払拭されていない。

このまま関係自治体及び地域住民の理解を得ることなく本格運用が開始されることはあってはならない。

政府においては、訓練計画や安全確保対策等について関係自治体等に対する説明を尽くし、責任ある対応をとるよう、改めて強く求める。

平成 24 年 12 月 7 日

全 国 知 事 会 会 長

山　田　啓　二